事務事業マネジメントシート(平成22年度実績と平成23年度計画)

平成23年10月14日更新

事務事業名		内柴旗少年少女柔道大会開催事業			☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり		所属部	教育委員会事務局教育部	課長名	上原 哲也
	施策	20	生涯学習の推進		所属課	生涯学習課	担当者名	坂本 政誠
	基本事業	69	生涯学習団体やスポーツ団体の組織化の推進		所属班	スポーツ振興班	(内線)	1518
予算科目		会計一般	款10	項6	目1	事業連番11293	法令根拠	スポーツ振興法 合志市社会教育関係団体活動事業補助金交付要綱 成果優先度評価結果：⑧ コスト削減優先度評価結果：⑥
終了、開始年度		☐ 22年度で終了 ☐ 22年度から開始			事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返(開始年度 18 年度) ☐ 期間限定複数年度 (~ 年度)		

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】 (開始した背景、きっかけ、今後の状況変化を含む)	実行委員会補助金の交付 *大会概要・・・小中学生を対象に九州各県から招待し大会を予定している。参加チーム数は約150チーム見込んでいる。オリンピック2大会連続金メダルを獲得し、名誉市民として表彰された内柴正人氏の功績を顕彰し、柔道を通じた青少年健全育成を図るために企画した。・柔道を志す青少年が大きな目標とする大会となることができれば、以後も根付いて行くものと思われる。・中学校教育課程の見直しにより平成24年度から正式に武道(剣道・柔道)が必須科目となるため、柔道競技への関心が本大会を通じてますます高まるとと思われる。
【業務の流れ】	実行委員会補助金交付事務及び事務局業務、大会開催業務
【主な予算費目】	補助金
【意見や要望】 関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	・平成21年3月定例会文教常任委員会において、「単に柔道大会を開催するだけでなく、合志市をうまくアピールし、合志市を売り込める大会を目指して欲しい」との要望があった。

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標	新規・拡充区分
① 手段(主な活動) 22年度実績(22年度に行った主な活動)(DO)	23年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN)
本年度の大会は中止した。	実行委員会補助金交付事務、実行委員会会議の開催
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位) 予算の主な増減の理由
→ ア 大会参加者	人 置購入費の減。
→ イ 参加チーム数	団体
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	② 対象指標(対象の大きさを表す指標)
大会参加者	(単位) 人
	→ ア 大会参加者
	→ イ
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	③ 成果指標(意図の達成度を表す指標)
本大会を通しての合志市のPR、合志市少年少女柔道選手の競技力向上、さらには柔道を通しての青少年健全育成を図る	(単位) 人
	→ ア 合志市内の少年少女柔道クラブ員数
	→ イ
*③成果指標設定の理由と23年度目標値設定の根拠	
・大会趣旨に「合志市の少年少女柔道選手が、柔道を通してたくましい精神力と豊かな人間性を培い、また、まちづくりの一翼を担う青少年の健全育成を図る」とあるため、大会を開催することにより柔道を志す青少年が増えるものとし成果指標として設定した。・現在員より微増するものと見込んだ。	

(2) 各指標・総事業費の推移		単位	20年度実績(決算)	21年度実績(決算)	22年度目標(当初予算)	22年度実績(決算)	23年度目標(当初予算)	24年度予定	25年度見込	
① 活動指標	ア 人		0	720	750	0	750	750	750	
	イ 団体		0	146	150	0	150	150	150	
② 対象指標	ア 人		0	720	750	0	750	750	750	
	イ									
③ 成果指標	ア 人		0	98	100	0	102	105	110	
	イ									
投資入費量	財源内訳	国庫支出金	千円							
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円							
		繰入金	千円							
		一般財源	千円		6,047		2,400	2,400	2,400	
	人件費	(A) 事業費計	千円	0	6,047	0	0	2,400	2,400	2,400
		(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0	0
		(A)のうち時間外、特別	千円	0	0	0	0	0	0	0
		(B) 人件費計	千円	0	1,464	1,464	86	1,516	1,442	1,442
トータルコスト(A)+(B)		千円	0	7,511	1,464	86	3,916	3,842	3,842	

総トータルコスト
全体計画
～
年度

(期間限定複数年度のみ記載)

事務事業名	内柴旗少年少女柔道大会開催事業	所属部	教育委員会事務局教育部	所属課	生涯学習課
-------	-----------------	-----	-------------	-----	-------

2 評価の部 (SEE) ※原則は22年度の後評価、ただし複数年度事業は22年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①22年度目標達成度評価 事務事業の当年度実績は当年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	☐ 達成した ☒ 達成しなかった ⇒【原因】 ・実行委員会設立の遅れや日程調整ができなかったため中止となった。
目標達成度評価	②23年度目標達成見込み 事務事業の次年度目標値に対して次年度の見込みはついているのか？	☒ 目標達成見込みあり ⇒【理由】 実行委員会を早期に立ち上げ、協力団体等との調整を早めに行う。 ☐ 目標達成は厳しい ⇒【理由と対策】
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになっていないか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由】 ・平成24年度より中学校体育授業において武道科目が必須となるなど、市内児童生徒の柔道競技に対する関心は現在よりも高まるため、成果向上の余地を十分あるものと思われる。 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 オリンピック2大会連続金メダルを獲得し、名誉市民として表彰された内柴正人氏の功績を顕彰する大会であるので、他に類似する事業はない。
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☒ 削減余地がある ⇒【理由】 国立阿蘇青少年交流の家所有の量を無償レンタルなどで経費削減に努めている。 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】
	⑥人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 担当職員以外の業務時間は、前日、当日の業務時間だけとしている。担当職員の業務時間も必要最低限で見込んでいる。 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 参加団体より参加費を徴収するので、公平である。 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化 事業事務のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行できないか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 市単独での事業実施は不可能であるので、国立阿蘇青少年交流の家、市内中学校柔道部、内柴正人サポータの会及び市柔道協会など各団体の協力を得て実施する。 ☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】

3 評価結果の総括 (SEE) ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

・大会運営において改善を要する事項が数点、実行委員から指摘があったので今年度大会運営においてクリアする。・サブアリーナへの練習会場設置は好評であった。敗退したチーム同士で練習試合を行うなど有効活用されていた。・現在の大会規模を維持するには国立阿蘇青少年交流の家の協力が不可欠である。しかし今般の国の「事業仕分け」で独立行政法人 国立青少年教育振興機構も対象となっており、不透明な部分がある。

4 今後の方向性 (事務事業担当課案) (PLAN)

(1) 今後の事業の方向性 (改革改善案)・・・複数選択可 ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☒ 事業のやり方改善 (有効性改善) ☐ 事業のやり方改善 (効率性改善) ☐ 事業のやり方改善 (公平性改善) ☐ 現状維持 (従来通りで特に改革改善をしない)	(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上	○			維持				低下			
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上	○																				
	維持																					
	低下																					
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題 (壁) とその解決策																						